

日本の新型コロナ対応について シンガポール紙日本特派員と意見交換

2020年7月14日

講師：ウォルター・シム

シンガポール英字紙「ザ・ストレイツ・タイムズ」

日本特派員



経済広報センターは7月14日、シンガポールの英字紙「ザ・ストレイツ・タイムズ」のウォルター・シム日本特派員を招き、「新型コロナの影響～シンガポール紙日本特派員の視点から」と題するオンライン会合を開催し、会員企業などから約30名が参加した。

2016年から日本特派員を務めるシム氏は、日本の新型コロナウイルス感染症対応について、検査数の少なさを指摘しつつも、日本人の衛生観念の高さが感染者数や死者数を抑えているとの見方を示した。

他方、シンガポールは、移民労働者を中心に45,000人以上の感染者を出し、経済も悪化しており、7月10日の総選挙では与党が大きく得票を減らした。これについてシム氏は、危機対応に正解はないが、国民の判断が選挙結果に反映されたと述べた。

また、新型コロナにより日本の「働き方改革」が急速に進んだ点については、継続が重要であるとして、企業の投資を求めた。

以上

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階

電話：03-6741-0031

<http://www.kkc.or.jp/>

<http://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。